内閣府青年国際交流事業報告書2022

令和4年度
国際社会青年育成事業

内 閣 府
Cabinet Office, Government of Japan

序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

「国際社会青年育成事業」は、日本と世界の青年の交流を通じて、相互理解と友好促進を図るとともに、国際協調の精神を養い、次代を担う青年を育成するべく60年以上にわたり実施してきた歴史ある事業です。

コロナ禍の影響により、日本青年を海外に派遣し、外国青年を日本に招へいするという従来の形での開催は困難になりましたが、この伝統の灯を絶やしてはいけないという思いから、令和２年度、３年度はオンラインでの交流を実施することで事業を継続してきました。

今年度は、ウィズコロナの交流の在り方を模索した結果、オンラインでの交流と対面での交流を組み合わせたハイブリッド型の交流という新たな形態で事業を実施することとしました。その背景には、この２年間のオンライン交流を通じ、時間と空間を超えた新たな交流形態の可能性の発見がありました。事業では、欧州地域からは「ITの活用」をテーマにエストニア、ドイツの青年が、中南米地域からは「災害対策」をテーマにドミニカ共和国、メキシコの青年が参加し、日本の青年とともに交流を深めました。

実際に日本の現場に足を踏み入れ、顔を突き合わせて議論する対面交流の意義は言うまでもありませんが、オンラインによる事前の交流を組み合わせることで、参加青年が日本で顔を合わせた際、「初めて会った気がしない」と感じたのではないかと思います。限られた時間の中で、参加青年の友情が最大限に深まることこそ私たちの願いとするところであり、今後もプログラムを改善する努力を続けていきたいと思います。

さらに、事業報告会では、今回のハイブリッド型の交流で得られた成果を報告するとともに、これまでの参加青年による経験や学びといった自身の成長を紹介する機会も設け、より多くの方々に本事業の魅力をお伝えするための広報を行いました。

本事業を通じて、参加青年が交流を深めるとともに、様々なテーマについて大いに議論いただいたことで、今後の活動につながる学びを得て、それぞれの国、地域に帰り、グローバルな視野と草の根の視点で未来を切り開いていかれることを期待するとともに、広く青少年の方々が、本事業を含む国際交流活動への関心を高めていただくことを願っています。

本報告書を通じ、事業の意義を御理解いただくとともに、今後一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施にあたり、御協力いただいた関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和５年3月

内閣府青年国際交流担当室長

黒瀬　敏文

国際社会青年育成事業
目次

序文 …… 2
グラビアページ …… 7

第１章　国際社会青年育成事業の概要

1.沿革 …… 18
2.目的 …… 18
3.令和4年度国際社会青年育成事業概要 …… 18
4.新型コロナウイルス感染症対策 …… 19

第２章　オンライン交流

1.オンライン交流について …… 20
2.中南米地域（災害対策）のオンライン交流 …… 20
3.欧州地域（ITの活用）のオンライン交流 …… 21

第３章　中央プログラム

1.中央プログラムについて …… 22
2.テーマ別のディスカッション・プログラム …… 23
3.共通テーマのディスカッション・プログラム …… 30

第４章　地方プログラム

1.地方プログラムについて …… 35
2.香川県 …… 35
3.新潟県 …… 38

第５章　参加青年アンケート評価

1.趣旨 …… 43
2.評価結果 …… 43
3.総括評価 …… 53

資料編

参加青年・スタッフ一覧 …… 98
事業実績 …… 102

令和4年度国際社会青年育成事業

INDEX 2022

第１章　国際社会青年育成事業の概要

第２章　オンライン交流

第３章　中央プログラム

第４章　地方プログラム

第５章　参加青年アンケート評価

第１章　国際社会青年育成事業の概要

１. 沿革

国際社会青年育成事業は、1959年（昭和34年）及び1993年（平成５年）の当時の皇太子殿下御成婚記念事業を、2019年（平成31年／令和元年）のお代替わりを契機に発展させた事業である。

1959年（昭和34年）に「青年海外派遣事業」として開始し、1962年（昭和37年）開始の外国青年招へい事業と合わせて、1994年（平成６年）から「国際青年育成交流事業」として実施し、2019年（平成31年／令和元年）から「国際社会青年育成事業」へと名称を変更している。

本事業は、2019年（平成31年／令和元年）まで、「日本青年海外派遣」及び「外国青年日本招へい」により構成するものであった。しかしながら、2020年（令和２年）及び2021年（令和３年）は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、参加青年の安全を確実に確保することは困難と判断せざるを得なかったことから、従来通りではなく、オンライン上での青年同士の国際交流を実施したものである。令和４年度国際社会青年育成事業は、約３年ぶりにコロナ禍の中で実現した対面交流となり、「外国青年日本招へい」に日本参加青年を加えて実施した。

２. 目的

世界共通の社会課題が顕在化する中で、社会課題の解決に貢献する日本青年を育成するため、世界的な社会課題をテーマに設定し、当該テーマに関する特徴的な取組を実施している２地域４か国の青年と我が国の当該テーマに関わる分野に1）従事している青年及び2）関心を有する青年とマルチ・ケース・スタディを行うとともに、当該国の青年を招へいし、我が国の青年との議論を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、国内各地域の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による社会貢献活動への寄与を目的とする。

３. 令和４年度国際社会青年育成事業概要

(1)参加国・参加人数

日本：12名
エストニア共和国：８名（団長１名及び参加青年７名）
ドイツ連邦共和国：８名（団長１名及び参加青年７名）
ドミニカ共和国：８名（団長１名及び参加青年７名）
メキシコ合衆国：８名（団長１名及び参加青年７名）
合計44名

(2)事業日程

①オンライン事前研修（日本参加青年のみ）：10月22日、29日（２日間）
②オンライン交流：災害対策：11月19日
　　：ITの活用：11月20日
③対面交流プログラム
　1）中央プログラム：12月7日～11日、16日（６日間）
　2）地方プログラム：12月12日～15日（４日間）
④ 事後研修（日本参加青年のみ）：12月16日（１日間）
⑤ オンライン事業報告会：令和５年２月11日（１日間）

(3)交流テーマ

①テーマ

ITの活用（欧州地域：エストニア共和国、ドイツ連邦共和国）

災害対策（中南米地域：ドミニカ共和国、メキシコ合衆国）

②共通テーマ

ITの活用、災害対策の観点から考える街づくり

(4)対面交流プログラム内容

①中央プログラム

テーマ別ディスカッション、共通テーマディスカッション、施設訪問、成果発表会、評価会、文化交流会、自主研修、歓送会等

②地方プログラム

表敬訪問、地元青年とのディスカッション、施設訪問等

4．新型コロナウイルス感染症対策

コロナ禍での実施となる今年度事業においては、以下の対策を講じた。

・参加人数の縮小。

・参加者全員が、新型コロナワクチンを接種済であること（種類は、原則として日本国内で有効と認められているもの）。

・参加者全員の体調管理（検温、体調チェック）を行う。

・来日／参集時のほか、地方プログラム前など適時かつ定期的なPCR検査などにより陰性確認の徹底。

・事業参加条件として対策や検査に必ず応じることについて参加者及び各国へ明示（常時マスク着用や手指消毒、必要に応じてのPCR検査など）。

・同感染症の適用を含む旅行保険への加入。

・コロナ対策ガイドライン等に沿った適切な対策・対応を行う機関や施設等を利用するとともに、万一陽性者が確認された際には、速やかに必要な措置を講じる。

・事業の実施期間中、密を回避するため、研修、宿泊施設、視察・交流先等のほか、移動車内、食事場所等において一定の距離を確保できるようにするとともに可能な限り換気を行う。

第２章　オンライン交流

１．オンライン交流について

本事業では、参加青年同士の相互交流を図り、円滑な対面交流を実現するため、日本と各地域の時差を考慮しつつ、地域別にオンライン交流を実施した。

11月19日（土）には「災害対策」をディスカッションテーマとする中南米地域（ドミニカ共和国及びメキシコ合衆国）の外国参加青年と日本参加青年が、11月20日（日）には「ITの活用」をディスカッションテーマとする欧州地域（エストニア共和国及びドイツ連邦共和国）の外国参加青年と日本参加青年がオンラインで対面した。

２．中南米地域（災害対策）のオンライン交流

(1)日時

日本時間：令和４年11月19日（土）9:00-12:00
ドミニカ共和国時間：令和４年11月18日（金）20:00-23:00
メキシコ合衆国時間：令和４年11月18日（金）18:00-21:00

(2)参加者

日本参加青年：５名
ドミニカ共和国参加青年：８名
メキシコ合衆国参加青年：８名
ファシリテーター：１名
交流実行委員：３名

(3)プログラム内容

日　本　時　間	内　容
9:00 － 9:15	オープニング／内閣府特命担当大臣ビデオメッセージ／オリエンテーション
9:15 － 9:20	ファシリテーターによる説明
9:20 － 9:35	アイスブレイク
9:35 － 10:05	ブレークアウトセッション（１回目）
10:05 － 10:10	休憩
10:10 － 10:40	ブレークアウトセッション（２回目）
10:40 － 10:45	休憩
10:45 － 11:15	ブレークアウトセッション（３回目）
11:15 － 11:25	ファシリテーターによるまとめ
11:25 － 11:40	ディスカッションテーマに関する説明
11:40 － 12:00	事務連絡／クロージング

3．欧州地域（ITの活用）のオンライン交流

(1)日時

日本時間：令和４年11月20日（日）17:00-20:00

エストニア共和国時間：令和４年11月20日（日）10:00-13:00

ドイツ連邦共和国時間：令和４年11月20日（日）9:00-12:00

(2)参加者

日本参加青年：７名

エストニア共和国参加青年：８名

ドイツ連邦共和国参加青年：８名

ファシリテーター：１名

交流実行委員：２名

(3)プログラム内容

日　本　時　間	内　容
17:00 – 17:15	オープニング／内閣府特命担当大臣ビデオメッセージ／オリエンテーション
17:15 – 17:20	ファシリテーターによる説明
17:20 – 17:50	ブレークアウトセッション（１回目）
17:50 – 18:00	休憩
18:00 – 18:30	ブレークアウトセッション（２回目）
18:30 – 18:35	休憩
18:35 – 19:05	ブレークアウトセッション（３回目）
19:05 – 19:15	休憩
19:15 – 19:25	ディスカッションテーマに関する説明
19:25 – 20:00	事務連絡／クロージング

第３章　中央プログラム

１．中央プログラムについて

外国参加青年は、12月7日（水）に来日し、同日参集した日本参加青年は直前研修を経て、全体オリエンテーションへ臨んだ。8日（木）から11日（日）は、「ITの活用」及び「災害対策」のテーマ別ディスカッションと、「ITの活用、災害対策の観点から考える街づくり」の共通テーマディスカッションを実施し、11日（日）には、４日間にわたる活動をまとめた成果発表会を行った。

地方プログラムから帰京した15日（木）は、日本参加青年と外国参加青年が小グループを編成し、東京都内を行動範囲として、自主的に活動内容を計画し、日本への知見を深めながら相互交流に取り組んだ。同日夕刻には歓送会を実施し、翌16日（金）、外国参加青年は帰国の途に就き、日本参加青年は事後研修に参加した。

＜中央プログラム日程＞

日　に　ち	時　間	活　動　内　容
12月7日（水）		外国参加青年来日
	15:00 – 17:00	日本参加青年直前研修
	19:00 – 20:00	夕食交流会
	20:00 – 21:00	全体オリエンテーション
12月8日（木）	9:00 – 12:00	テーマオリエンテーション
	12:00 – 13:30	昼食交流会
	13:30 – 17:00	テーマ別ディスカッション
	18:30 – 20:00	夕食交流会
12月9日（金）	9:00 – 12:30	共通テーマ視察：株式会社ウェザーニューズ
	13:15 – 15:30	テーマ別視察「IT の活用」：千葉大学
		テーマ別視察「災害対策」：本所防災館
	16:00 – 19:00	テーマ別ディスカッション（まとめ）
	19:30 – 21:00	夕食交流会
12月10日（土）	9:00 – 12:00	共通テーマディスカッション
	12:00 – 13:30	昼食交流会
	13:30 – 15:00	共通テーマディスカッション
	18:30 – 21:00	夕食／文化交流会
12月11日（日）	9:00 – 12:00	共通テーマディスカッション
	12:00 – 13:30	昼食交流会
	13:30 – 15:00	成果発表会
	15:00 – 16:00	評価会
	16:00 – 17:00	地方プログラムオリエンテーション
	18:30 – 20:00	夕食交流会
12月12日（月）		地方プログラム
12月13日（火）		地方プログラム
12月14日（水）		地方プログラム
12月15日（木）	AM	地方プログラム
	PM	自主活動
	19:00 – 21:00	歓送会
12月16日（金）		外国参加青年帰国
	10:00 – 15:00	日本参加青年事後研修

第4章　地方プログラム

1. 地方プログラムについて

日本参加青年と外国参加青年は、12月12日（月）から12月15日（木）まで、２グループに分かれて地方プログラムに参加した。「ITの活用」テーマのエストニア共和国とドイツ連邦共和国、そして日本の参加青年は香川県を訪問し、「災害対策」テーマのドミニカ共和国とメキシコ合衆国、そして日本の参加青年は新潟県を訪問した。各地方プログラムでは、表敬訪問のほか、それぞれのテーマに沿った施設訪問や、地元青年とのディスカッション・プログラムに参加した。

2. 香川県

(1)日程

日　に　ち	時　間	活　動　内　容
12月12日（月）	AM	羽田空港から高松空港へ
	14:45 － 17:00	栗林公園 オリエンテーション（掬月亭） 茶道体験、園内散策
	17:30 － 18:15	ホテルチェックイン、休憩
	19:00 － 20:30	歓迎会／夕食（郷屋敷）
12月13日（火）	9:15 － 10:30	ユープラザうたづ 四国水族館 館長による講義
	10:45 － 11:45	四国水族館見学
	11:45 － 12:45	昼食（バス内）
	13:00 － 14:30	香川大学インターナショナルオフィス 地元青年とのディスカッションプログラム（1）
	15:30 － 17:30	香川県庁 香川県知事表敬訪問
	18:30 － 20:30	夕食（讃岐おもちゃ美術館カフェ）
12月14日（水）	9:15 － 13:40	高松市立浅野小学校 小学生との文化交流 授業見学 給食体験 小学生との昼休み活動交流
	14:10 － 20:00	香川大学インターナショナルオフィス 地元青年とのディスカッションプログラム（2） 文化紹介（パフォーマンス交流） 夕食（大学生協）
12月15日（木）	AM	高松空港から羽田空港へ

3.新潟県

(1)日程

日　に　ち	時　間	活　動　内　容
12月12日(月)	AM	東京駅から新潟駅へ
	13:40 － 15:00	新潟ふるさと村 自由散策
	15:30 － 17:30	ホテルチェックイン、休憩
	19:00 － 20:30	歓迎会（ホテル）
12月13日(火)	10:15 － 13:30	信濃川大河津資料館 施設訪問 昼食
	14:00 － 16:00	三条市水防学習館 施設訪問
	17:00 － 18:00	ホテルにて 地元青年とのディスカッション交流
	18:00 － 20:20	ホテルにて NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワークによる講義
	20:30	夕食（ホテル）
12月14日(水)	9:45 － 14:00	新潟大学旭町キャンパス 講義（新潟大学医学部災害医療教育センター） 昼食（お弁当） 成果発表会
	14:00 － 16:00	市内見学（燕喜館、白山神社）
	16:30 － 16:30	ホテル着
	17:00 － 20:00	地元青年と交流（散策、夕食含む）
12月15日(木)	8:45 － 11:00	新潟県庁 新潟県副知事表敬訪問 庁舎展望回廊見学
	11:30	新潟駅から東京駅へ

第５章　参加青年アンケート評価

１．趣旨

国際社会青年育成事業は、1959年（昭和34年）及び1993年（平成5年）の当時の皇太子殿下御成婚記念事業を、2019年（平成31年／令和元年）のお代替わりを契機に発展させた事業である。

本事業の目的は「日本と諸外国の青年の議論を通じて理解を深めるとともに、青年相互の友好と理解を促進し、国内各地域の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等へ寄与すること」であり、事業参加によりコミュニケーション能力や多文化に対応する適応能力等の向上を図ることをねらいとしている。

2019年（平成31年／令和元年）までは「日本青年海外派遣」及び「外国青年日本招へい」を実施していたものであるが、2020年に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで青年同士の国際交流を実施してきた。今年度事業はコロナ禍の中で実現した約３年ぶりの対面交流となり、「外国青年日本招へい」に日本参加青年を参加させることにより対面交流を実施したものである。

事業の成果を測るため、日本参加青年および外国参加青年全員を対象として対面交流事業終了時にアンケート評価を行った。評価数値基準は、５段階評価（評価の高い方から５～１）を基本とした。

また、日本参加青年に対しては、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化についての比較調査も行った。評価数値基準は、他事業の調査との比較の観点から６段階評価（評価の高い方から６～１）を基本とした。

２．評価結果

(1)事業目的の達成度

①事業全体の満足度

「事業全体をどのように総合評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の100%、外国参加青年の100％が５段階評価の４（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「コロナ禍で途絶えていた貴重な対面での国際交流の機会となり、様々な出会いと学びがあったプログラムだった。」「プログラムの内容が大変充実しており、ディスカッションテーマに合わせた交流を十分に行うことができた。」「多様な人々との交流が自己の成長につながった。」「この交流をとおして留学すると決意したので、人生のターニングポイントになると思う。」「海外を視野に今後活動したい人にとって、ネットワークを構築することができる。」などのコメントがあった。コロナ禍で実現の難しかった対面交流にようやく参加できたという喜びと、異なる意見や文化背景を持つ参加青年と出会い、寝食を共にして絆を深め、プログラムを通して自己成長の達成感を得た様子がうかがえる。

外国参加青年からは、「素晴らしい経験となった。」「プログラム全体が優れていた。」「プログラムの構成は目的に適っており、ディスカッションの進行も目的を達成するべく組み立てられていた。」「この事業は、私の人生において最高の経験のひとつとなった。この事業で得た思い出や、出会った素晴らしい人々、綿密な準備のおかげで体験できたことを大切にしていきたいと思う。」などのコメントが寄せられた。設定されたテーマに沿い、綿密に練られたプログラムの中で、多くの知識や経験を得たことに加え、海外渡航を経て参加青年同士をはじめ多くの人々と出会い、直接的かつより深い交流を実現したという達成感を得たことが、事業全体の満足度を高めたと推察できる。

②オンライン交流の満足度

「オンライン交流は対面交流への準備として役立ちましたか」との問いに対して、日本参加青年の62％、外国参加青年の88％が５段階評価の４（良かった）以上を付けた。

オンライン交流の良かったところとして、日本参加青年からは、「事前に相手の好みや興味について知ることができた。」「事前にお互いについて少し知る機会になった。」「いきなり対面で会うよりも、オンライン交流を通してお互いのことを知った状態で会うことができた。」などが挙げられた。外国参加青年からは、「参加青年と顔を合わせ、声を聴き、お互いの基本的な情報を得られた。」「オンライン交流で、事業概要を理解し、参加者と知り合うことに役立った。」「オンライン交流で、プログラムを共にする仲間に会うことができ、プログラムの内容やスケジュールを理解できた。また、スタッフを知り、必要な質問をすることができた。」などが挙げられた。時間的・物理的制約の低いオンライン交流を対面交流前に活用することで、プログラムへの理解を深め、参加青年同士のコミュニケーションを円滑にする可能性を高めたと言える。

③中央プログラムの満足度

中央プログラムは、主にディスカッション活動で構成されている。「ITの活用」及び「災害対策」をテーマとして、テーマ別に実施したディスカッションに対する評価は、日本参加青年の100％、外国参加青年の97％が５段階評価の４（良かった）以上を付けた。また、「ITの活用、災害対策の観点から考える街づくり」を共通テーマとして実施したディスカッションに対する評価は、日本参加青年の92％、外国参加青年の94％が５段階評価の４（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「ITと防災の二つの観点から深くディスカッションできて良かった。」「ディスカッションを通して様々な意見に触れることがとても刺激的だった。もっと話したいと思えるようになった。」「外国参加青年との交流やディスカッションなどを通して、国際交流の重要性・楽しさに気づくことができた。それに加えて、自国の課題と向き合い、学んだことをどのようにフィードバックするのか、どうすれば自国をより良くしていけるのか、そのために私は何ができるのかを考える起点になり、事業に参加できて良かったと心から思っている。」などのコメントが寄せられた。外国参加青年からは、「全ての目的が達成されるように、綿密な準備の上に実行された活動内容だった。」「中央プログラムを心から楽しんだ。ディスカッションでは日本や他の国々について多くを学ぶことができた。各種準備も順調に進み、参加者全員がベストを尽くした。」「ぎっしり詰まったスケジュールだったが、非常に楽しむことができた。ファシリテーターの進行は素晴らしく、仲間となる参加青年たちも大変聡明でしっかりと発言していた。」などのコメントが寄せられた。コロナ禍における対面交流の実施により、活動内容やスケジュールに制約が生じたものの、その状況を理解して協力的に行動し、与えられた状況の中で最大限に成果を果たそうとする参加青年たちの前向きな姿勢がうかがえる。

④地方プログラムの満足度

地方プログラムはテーマ別に、2グループに分かれて実施した。「ITの活用」テーマの参加青年は香川県を訪問、「災害対策」テーマの参加青年は新潟県を訪問した。コロナ禍の影響を受け、一部活動内容を変更する場面も生じ、地方プログラムに対する評価について、香川県は５段階評価中、平均3.6～4.9ポイント、新潟県は５段階評価中、平均3.0～4.9ポイントという評価になっている。

香川県における地方プログラムの良かったところとして、日本参加青年からは、「いろんな人と出逢いながら、日本文化やディスカッションを堪能できた。」「環境問題や、地元の学生との交流があった。海外の人と文化的にも歴史的にも貴重な体験をすることができて、それぞれの感じ方の違いを学ぶことができた。」「IYEOや大学生・小学生など、地元の人たちと沢山関わることができてよかった。とても温かかった。」などのコメントが寄せられ、また外国参加青年からは、「施設訪問とディスカッションプログラムのバランスが良かった。行き届いた受入準備に感謝している。」「プログラム全体の中でも、香川県訪問を非常に楽しむことができた。栗林公園は大変すばらしく、小学校での活動も非常に楽しんだ。」「香川県の歓迎に大変感謝している。特に、文化体験を非常に楽しんだ。カジュアルな交流でお互いの文化を共有したことで、より友情を深めることができた。」などのコメントが寄せられた。

新潟県における地方プログラムの良かったところとして、日本参加青年からは、「雪が降らない国の方々が雪を見て喜んでいたのが嬉しかった。」「地方プログラムの良かったところは、水防学習館を訪れたことによって現地で実際に起きたことを知ることができたところだ。中央プログラムでディスカッションした後に見たもの・聞いたものは、より深く私の胸に響いた。また、地方学生と交流・ディスカッションできたことも楽しかった。」「色々な場所の見学ができたり、いろいろな分野のご講演をいただいたりと勉強になった。」などのコメントが寄せられ、また外国参加青年からは、「素晴らしかった。新潟県の全てのプログラムに大変感謝している。たくさんの活動があり、わずか数日間に多くを学ぶことができた。」「新潟での体験はとても素晴らしかった。受入れてくれた実行委員はみな親切でプログラムの活動も興味深く示唆に富む内容であった。」「地方プログラムはとてもよかった。受入れ委員会のみなさんが我々の期待に沿ってくれた。地方 プログラムに関わったみなさんに感謝したい。」などのコメントが寄せられた。

各県において参加青年は、テーマに沿った取組事例に関し、施設訪問や講義を受けたり、地元参加青年とのディスカッションを行ったりして、新たな知見を得ることができた。また、各県の名所と言われる施設を訪れ、庭園や茶道などの日本文化を体験したり、雪国ならではの気候を体験したり、地域性を含んだ様々な側面から日本を知る機会を得て、喜んでいた様子がうかがえる。これらは青年の受入れを心待ちにしていた各県担当者及び各県実行委員会の綿密な準備の賜物であり、あらゆる場面で実行委員や地元参加青年と積極的な交流をしていた青年が多かったことからも、学びと交流が両立したプログラムであったと言える。

⑤事前研修及び事後研修の満足度

「研修内容をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の100％が５段階評価の４（良かった）以上を付けた。

研修の良かったところとして、日本参加青年からは、「アイスブレイクが十分にできたので、対面の際も初対面の気が全くしなかった。」「オンラインでの事前研修だったので、気軽に家から受講できた。」「テーマに関する知識がない状態で参加しても、研修を通して知識を得た状態で対面交流に挑めた。」「気をつける点を知り、学びをまとめることができた。」「目標や評価基準を設定することで、事業中にリアルタイムでフィードバックできた。自分で定めたゴールや日本人青年として適した振る舞いができているか確認するために、研修は役立った。」「事後研修は、日本参加青年同士の関係が事業前より良くなったと感じた。」などのコメントが寄せられた。

オンラインで実施した事前研修では、ファシリテーターからディスカッションテーマに関する講義を受け、大使館職員や専門家から交流国の情報や状況を学び、これらインプットを通して対面交流へ向けた準備活動を自主的に進めていった様子がうかがえる。対面交流直後に実施した事後研修では、ディスカッション成果を振り返ってテーマに対する更なる理解を深めたり、地方プログラムでの体験も含め、テーマのグループを超えて成果を共有したり、研修へ主体的に関わろうとした姿勢がうかがえる。

⑥集計結果

＜回答率＞

外国参加青年：32名中32名（100%）

日本参加青年：12名中12名（100%）

＜略称＞

F：外国参加青年、J：日本参加青年

IT_J：ITの活用日本参加青年、DM_J:災害対策日本参加青年

IT_F：ITの活用外国参加青年(欧州地域)、DM_F：災害対策外国参加青年(中南米地域)

＜評価指標＞

５：最も良い⇔１：最も悪い

1. 全体評価

(1)あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。(複数回答可)		
	F	J
①交流国の人々に日本を伝えるため	5	4
②交流国の社会事情、文化等に関心があるため	12	8
③設定されたテーマに強い関心があるため	9	11
④日本での人脈を拡大したり、友人をつくったりするため	8	6
⑤交流国の人たちと人脈を築いたり、友人となったりするため	6	10
⑥国際交流事業に興味を抱いたため	9	9
⑦自己啓発のため	7	4
⑧仕事上のキャリアを積む若しくは地位を築くため	5	1

(2)事業全体をどのように総合評価しますか。							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	18	14	0	0	0	0	4.6
J	7	5	0	0	0	0	4.6

(3)あなたは目標を達成できましたか。							
	5：目標を超えて大きな成果を得ることができた	4：達成できた	3：どちらでもない	2：あまり達成できなかった	1：まったく成果を得られなかった	無回答	平均
F	21	9	2	0	0	0	4.6
J	3	8	1	0	0	0	4.2

(4)以下の①～⑫までに掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の５～１のうち、該当すると思われるものを選択してください。							
①交流国と交流国の文化についての知識・理解							
	5:大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	11	12	8	1	0	0	4.0
J	9	3	0	0	0	0	4.8

②コミュニケーション力							
	5:大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	12	17	2	1	0	0	4.3
J	5	6	1	0	0	0	4.3

③リーダーシップ							
	5:大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	11	12	7	2	0	0	4.0
J	3	6	2	1	0	0	3.9

④問題解決力(目前の課題を解決するために創意工夫する力)							
	5:大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	10	18	4	0	0	0	4.2
J	4	5	2	1	0	0	4.0

⑤異文化への対応力							
	5:大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	19	12	1	0	0	0	4.6
J	5	6	1	0	0	0	4.3

⑥主体性・積極性・チャレンジ精神							
	5:大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	15	15	2	0	0	0	4.4
J	4	8	0	0	0	0	4.3

⑦集団生活への適応力(協調性・柔軟性等)							
	5:大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	19	12	1	0	0	0	4.6
J	6	4	0	2	0	0	4.2

⑧日本人(各国人)としてのアイデンティティー／誇り							
	5：大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	20	11	1	0	0	0	4.6
J	4	6	1	1	0	0	4.1

⑨責任感・使命感							
	5：大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	18	11	3	0	0	0	4.5
J	5	6	1	0	0	0	4.3

⑩自己管理力							
	5：大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	15	11	6	0	0	0	4.3
J	2	5	3	2	0	0	3.6

⑪ディスカッション力							
	5：大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	13	16	2	1	0	0	4.3
J	3	7	1	1	0	0	4.0

⑫国内外の友人/ネットワークづくり							
	5：大きな効果があった	4：効果があった	3：どちらでもない	2：あまり効果がなかった	1：効果がなかった	無回答	平均
F	12	12	7	1	0	0	4.1
J	7	5	0	0	0	0	4.6

(5)あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。							
	5：人生の進路を考え直すほどの大きな影響を受けた	4：大きく変わった	3：どちらでもない	2：あまり変わらなかった	1：全く変わらなかった	無回答	平均
F	12	17	1	2	0	0	4.2
J	2	8	1	1	0	0	3.9

(6)この事業を通じて、あなたと交流国の人々との相互理解が深まったと思いますか。							
	5：とても深まったと思う	4：深まったと思う	3：どちらでもない	2：あまり深まったとは思わない	1：深まったと思わない	無回答	平均
F	22	10	0	0	0	0	4.7
J	6	4	2	0	0	0	4.3

(7)この事業を通じて、あなたと交流国の人々との友好が深まったと思いますか。							
	5：とても深まったと思う	4：深まったと思う	3：どちらでもない	2：あまり深まったとは思わない	1：深まったと思わない	無回答	平均
F	25	7	0	0	0	0	4.8
J	7	5	0	0	0	0	4.6

(8)事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。							
	5：十分に意欲を持った	4：ある程度意欲を持った	3：どちらでもない	2：ある程度関心を持つようになった	1：全く持たなかった	無回答	平均
F	19	11	2	0	0	0	4.5
J	10	2	0	0	0	0	4.8

(9)この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。							
	5：とても役立つと思う	4：役立つと思う	3：どちらでもない	2：あまり役立つと思わない	1：役立つと思わない	無回答	平均
F	22	9	1	0	0	0	4.7
J	10	2	0	0	0	0	4.8

(10) 上記において、5 ～4 を選んだ方は、どのように役立つと考えるか、以下の内容から当てはまる項目を選んでください。(複数回答可)		
	F	J
① 就職の際の社会活動実績として示すことができる	24	4
② 自分の広い意味でのキャリア実績として示すことができる	25	8
③ 自分の専門分野の実績として示すことができる	15	3
④ 自分の人格形成に対して良い影響を与える	27	9
⑤ 自分の国際的視野が広がったことにより、理解力の向上につながる	28	12
⑥ 国際問題や異文化に対する理解が深まった	28	11
⑦ 交流国における人的ネットワークの広がり	30	11
⑧ 交流国の日本人メンバーとの人的ネットワークの広がり	23	10

2. 中央プログラムについて (12月7日～12月11日、15日)

(1) テーマ別ディスカッションの評価							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	18	13	1	0	0	0	4.5
J	6	6	0	0	0	0	4.5
IT_F	4	11	1	0	0	0	4.2
DM_F	14	2	0	0	0	0	4.9
IT_J	4	3	0	0	0	0	4.6
DM_J	2	3	0	0	0	0	4.4

(2) 共通テーマディスカッションの評価							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	17	13	2	0	0	0	4.5
J	7	4	1	0	0	0	4.5
IT_F	4	10	2	0	0	0	4.1
DM_F	13	3	0	0	0	0	4.8
IT_J	4	3	0	0	0	0	4.6
DM_J	3	1	1	0	0	0	4.4

(3) 成果発表会の評価							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	16	14	2	0	0	0	4.4
J	5	6	1	0	0	0	4.3
IT_F	6	8	2	0	0	0	4.3
DM_F	10	6	0	0	0	0	4.6
IT_J	3	4	0	0	0	0	4.4
DM_J	2	2	1	0	0	0	4.2

(4) 文化交流会の評価							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	25	5	2	0	0	0	4.7
J	10	2	0	0	0	0	4.8
IT_F	10	4	2	0	0	0	4.5
DM_F	15	1	0	0	0	0	4.9
IT_J	5	2	0	0	0	0	4.7
DM_J	5	0	0	0	0	0	5.0

(5) 評価会の評価							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	17	12	3	0	0	0	4.4
J	4	7	1	0	0	0	4.3
IT_F	5	8	3	0	0	0	4.1
DM_F	12	4	0	0	0	0	4.8
IT_J	2	5	0	0	0	0	4.3
DM_J	2	2	1	0	0	0	4.2

(6)都内自主研修の評価							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	22	8	2	0	0	0	4.6
J	6	3	3	0	0	0	4.3
IT_F	9	5	2	0	0	0	4.4
DM_F	13	3	0	0	0	0	4.8
IT_J	5	2	0	0	0	0	4.7
DM_J	1	1	3	0	0	0	3.6

(7)歓送会の評価							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
F	15	12	5	0	0	0	4.3
J	8	3	1	0	0	0	4.6
IT_F	5	6	5	0	0	0	4.0
DM_F	10	6	0	0	0	0	4.6
IT_J	5	2	0	0	0	0	4.7
DM_J	3	1	1	0	0	0	4.4

3-1. 地方プログラムについて（香川県：12月12日～12月15日）
回答対象：IT_F、IT_J

(1)12 月12 日 栗林公園、園内散策							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	15	0	1	0	0	0	4.9
IT_J	4	3	0	0	0	0	4.6

(2)12 月12 日 歓迎会							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	8	6	1	1	0	0	4.3
IT_J	4	3	0	0	0	0	4.6

(3)12月13日 ユープラザうたづ見学（四国水族館館長講義）							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	5	6	3	0	0	2	4.1
IT_J	3	3	1	0	0	0	4.3

(4)12 月13 日 四国水族館見学							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	4	3	8	1	0	0	3.6
IT_J	2	3	2	0	0	0	4.0

(5)12 月13 日 香川大学でのディスカッションプログラム							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	3	5	6	2	0	0	3.6
IT_J	2	2	3	0	0	0	3.9

(6)12 月13 日 香川県庁表敬訪問							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	7	7	2	0	0	0	4.3
IT_J	3	3	1	0	0	0	4.3

(7)12 月14 日 高松市立浅野小学校見学							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	15	1	0	0	0	0	4.9
IT_J	5	2	0	0	0	0	4.7

(8)12 月14 日 地元青年とのディスカッション							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	4	8	3	1	0	0	3.9
IT_J	3	2	2	0	0	0	4.1

(9) 12月14日 グローバルカフェ							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
IT_F	4	6	6	0	0	0	3.9
IT_J	4	3	0	0	0	0	4.6

3-2. 地方プログラムについて（新潟県：12月12日～12月15日）
回答対象：DM_F、DM_J

(1) 12月12日 新潟ふるさと村散策							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	12	1	0	0	0	3	4.9
DM_J	2	1	1	1	0	0	3.8

(2) 12月12日 歓迎会							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	11	2	0	0	0	3	4.8
DM_J	2	3	0	0	0	0	4.4

(3) 12月13日 信濃川大河津資料館見学							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	12	1	0	0	0	3	4.9
DM_J	3	1	0	0	0	1	4.8

(4) 12月13日 三条市水防学習館見学							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	9	4	0	0	0	3	4.7
DM_J	4	0	0	1	0	0	4.4

(5) 12月13日　NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク講演							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	9	4	0	0	0	3	4.7
DM_J	2	1	1	1	0	0	3.8

(6) 12月14日　新潟大学でのディスカッション							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	8	3	1	0	0	4	4.6
DM_J	0	0	4	0	0	1	3.0

(7) 12月15日　新潟県庁表敬訪問							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	12	1	0	0	0	3	4.9
DM_J	0	4	1	0	0	0	3.8

(8) 12月15日　新潟県庁展望回廊見学							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
DM_F	9	3	1	0	0	3	4.6
DM_J	0	3	2	0	0	0	3.6

4．オンライン交流について

オンライン交流は対面交流への準備として役立ちましたか。							
	5：大変役立った	4：役立った	3：どちらでもない	2：あまり役立たなかった	1：全く役立たなかった	無回答	平均
F	12	16	2	2	0	0	4.2
J	2	6	4	0	0	0	3.8
IT_F	1	11	2	2	0	0	3.7
DM_F	11	5	0	0	0	0	4.7
IT_J	0	4	3	0	0	0	3.6
DM_J	2	2	1	0	0	0	4.2

5. 事前研修及び事後研修について
回答対象：IT_J、DM_J

研修内容をどのように評価しますか。							
	5：大変良かった	4：良かった	3：どちらでもない	2：悪かった	1：とても悪かった	無回答	平均
J	3	9	0	0	0	0	4.3
IT_J	2	5	0	0	0	0	4.3
DM_J	1	4	0	0	0	0	4.2

(2)日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について６段階（６＝十分備えている、５＝備えている、４＝ある程度備えている、３＝あまり備えていない、２＝備えていない、１＝全く備えていない）による比較調査を行ったところ、図１のような結果になった。

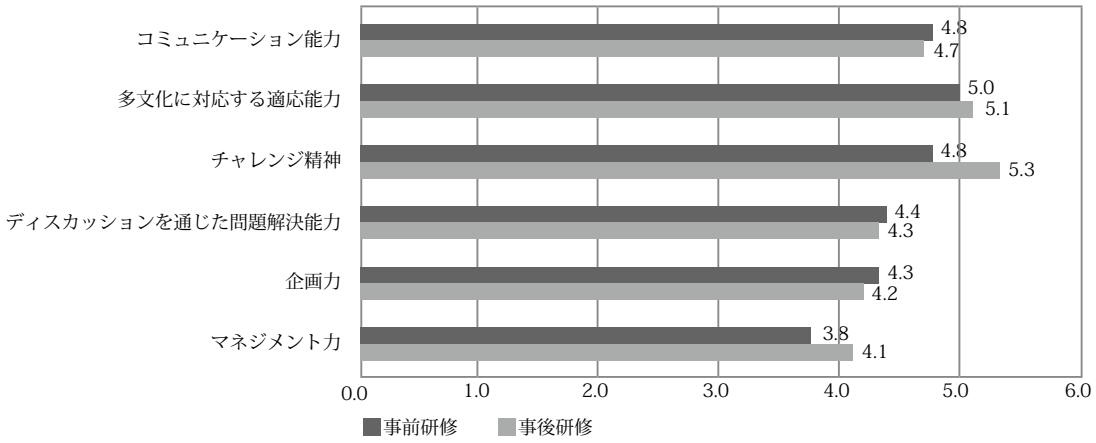

図１　事業実施前後の能力向上に関する自己評価の増減
（ポイント数については、小数第二位を四捨五入）

伸び幅は大きい順に、「チャレンジ精神」「マネジメント力」「多文化に対応する適応能力」であり、「コミュニケーション能力」「ディスカッションを通じた問題解決能力」「企画力」については0.1ポイントの減となった。

「チャレンジ精神」の向上に関して、「ディスカッションをまとめたり発表したり、勇気を持って前に立つことができた。」「初日よりも最終日では積極的に話すことができるようになった。」「ディスカッションの進行には自信がなかったが、プレゼンの準備などで発表したり資料を準備するなど、自分が動けるポジションを見つけられるようになった。」「この事業への参加自体が大きなチャレンジであり、活動を通して、主体的に意見を述べること、多くの人の前で発表やスピーチなどにチャレンジすることができた。」などの自由記述があった。日本参加青年は本事業を通して、チャレンジを積み重ねることで得られる自らの成長を実感すると同時に、大なり小なりの日々の達成感が新たなチャレンジの原動力となっていく、プラスの循環を実感したものと考察できる。

また、「マネジメント力」の向上に関して、「プレゼンに向けた準備はもちろんのこと、外国参加青年が楽しめるように俯瞰的に状況を見ながら様々な指示を出すことができた。」「期限を守るためのtodo整理は、チームメンバーに頼るところが多かったが、間違えていないか確認して、実行できるように努めた。」「スケジュールの確認、集合時間の確認、服装の確認など、配布資料を参考にして常にチェックを欠かさなかった。」「年齢や文化を越えてマネジメントすることの難しさを学び、プログラムの後半には少しずつコツを身

に着けたように思う。」「様々な人が集まる環境において、まだ自分のマネジメント力は行き届いていないことを痛感した。より広い視野で、各人の立場に立った提案力や管理力を備える必要がある。」などの自由記述があった。日本参加青年は本事業を通して、団体行動や多様な人々と協働する機会に直面し、マネジメントの難しさや必要性を認めるとともに、現段階での能力不足を感じつつも、機会を得たことでその能力を高めることができたという達成感を得たようである。

微増の評価となった「多文化に対応する適応能力」の向上に関して、「色々な文化を楽しむことができた。」「初めて中南米の人々と関わる機会となり、初めの段階では驚かされることも多くあったが、最終的には一緒になって楽しむことができた。」「コロナ禍の制約の中でも、その中でできることを考え、多文化や他環境に臨機応変に対応できた。」「グループや他国との交流を通し、それぞれの地域や国に合った態度を取れるようになった。」などの自由記載があった。日本参加青年は本事業を通して、交流対象国となった４か国の外国参加青年との交流を楽しみ、各国への興味関心を高め、より円滑で効果的な交流を実現できるように創意工夫を心掛けた様子がうかがえる。

0.1ポイント減の評価となった「コミュニケーション能力」の向上に関しては、「初対面でも怖がらずに話すことができた。話したいという気持ちが背中を押してくれ、その経験が糧となった。」「分からないことを聞くこと、確認することへの抵抗が少なくなった。自分の思ったことを言ってみるハードルが下がった。」「外国参加青年のコミュニケーション能力の高さとスピードの速い会話についていくため、自身の思考回路が少し早くなった。ディスカッションで議論をまとめる力もついた。」「年上の参加青年を参考に、徐々に話の回し方などを覚えた。」「国籍だけでなく、年齢の枠組みを超えたコミュニケーション能力が身に付いた。」などの自由記載があった。評価としてはポイント減となったものの、日本参加青年は本事業を通して、国籍や性別、年代や経験の違いを超えたコミュニケーションに果敢に取り組み、多様性で満たされた環境の中で、切磋琢磨し成長を達成した様子がうかがえる。

同じく0.1ポイント減となった「ディスカッションを通じた問題解決能力」の向上に関して、「自分自身で伝えられないもどかしさから発言を多く行うことができず、反省が残る。限られた時間の中で十分に発揮できる能力には程遠い。」「外国人とディスカッションする機会がそもそもなかったため、本事業で実現できただけでも能力の向上につながったと思う。」「課題を見つけることよりも、解決策を考えることが得意なことに気づいた。」「抵抗はなくなったが、言語と知識に課題があると感じた。よりスムーズに、良い意見を出すためにも、その両方を伸ばしていきたい。」「学生時代に取り組んできた課題解決と比べて内容が全く異なり、グローバルに考えなければならない点において、自分の視野の狭さが顕著に現れた。」などの自由記載があった。ポイント減となったものの、日本参加青年はこの領域の能力獲得に対する必要性を強く感じており、本事業に参加することで、課題として気づくきっかけになったということがうかがえる。

同じく0.1ポイント減となった「企画力」の向上に関して、「自主研修の企画や朝のお散歩など、外国参加青年とともに過ごすための企画を実施できた。一緒に日本参加青年の仲間が考えてくれたので、忙しい中まとめられた。」「文化交流や自由散策などの企画に携わり、ニーズに応じた企画を持ち込み、みんなを巻き込んで楽しむことができた。」「文化交流や自主研修の際に、既参加青年から話を聞いたり、外国人向けの観光雑誌から情報をリサーチしたり、様々な情報を入手して共有することができた。」などの自由記載があった。日本参加青年の「企画力」の向上に関する実感は低いものの、他と協働するためにあらゆる努力を尽くしたということがうかがえる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について６段階（６＝非常にそう思う、５＝そう思う、４＝ややそう思う、３＝あまりそう思わない、２＝そう思わない、１＝全くそう思わない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

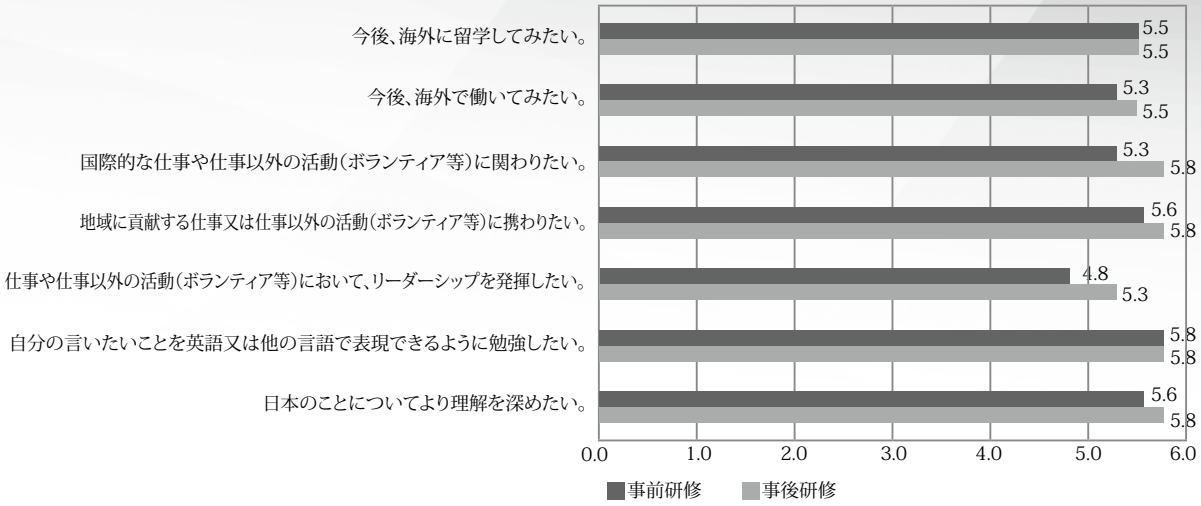

図２　事業実施前後の意識の変化に関する自己評価の増減（ポイント）
（ポイント数については、小数第二位を四捨五入）

伸び幅は大きい順に、「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」、「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」、「今後、海外で働いてみたい。」、「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」、「日本のことについてより理解を深めたい。」であり、「今後、海外に留学してみたい。」、「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」についてはポイント増減がなかった。日本参加青年は、本事業実施前から全項目に対する意識が高かったが、ほぼ全ての項目においてポイントが増加したことに鑑み、本事業を経て意欲が向上したと言える。

日本参加青年の意欲や意識の向上を裏付けるものとして、「事業終了後、どのように事業で得た成果をいかしていきたいか」との質問に対して、「英語力の向上」「異文化適応力の向上」「海外留学を目指し、語学と専門分野の勉強に注力」「色々な職種の人と協力し、一人で行うよりも大きなことを成し遂げ、社会に還元したい。」「国際分野の業務に従事し、コミュニケーション能力や異文化理解力をいかしたい。」「国際交流による視点の広がりや楽しさを他の人にも共有していきたい。」「様々なバックグラウンドを持つ人を巻き込んで一緒に目標を達成していくような社会人になりたい。」などのコメントが寄せられた。このことから、本事業を通じて様々なバックグランドを持つ外国参加青年と交流をしたことによって、日本参加青年は大きな刺激を受け、彼らが抱いている進路やキャリアプランに、事業の前後で変化があったことがうかがえる。本事業への参加が彼らの社会貢献活動に対する意欲向上の一助になったと考えられる。

３．総括評価

最後に、アンケート内の特筆すべき結果や参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価としてまとめる。

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年92％、外国参加青年97％が５段階評価の４（役立つと思う）以上を付け、高い評価であった。また、「どのように役立つと考えるか」という問いの８つの選択肢のうち、「⑤自分の国際的視野が広がったことにより、理解力の向上につながる」「⑥国際問題や異文化に対する理解が深まった」「⑦交流国における人的ネットワークの広がり」が、日本参加青年及び外国参加青年ともに最も多かった。参加青年からは、「将来自分がどのような道に進むかなどを考える大きなきっかけの一つとなった。」「仕事にとどまらず、社会活動として大いに役に立つと感じる。」「広がった視野が役に立つと思う。」「ここで得た学び・経験・ネットワーク・やりがい・友情などすべてが、今後の人生の中で役立つと思う。」「アジアやラテンアメリカの文化についてほとんど触れてこなかったため、育成事業での経験はとても貴重であり、将来において多いに役立つ見識を得ることができた。」「育成事業への参加は間違いなく職業上に大いに役立つと思う。」

などのコメントが寄せられた。以上のことから、「青年の国際的視野を広げる」という本事業の目的を十分に果たし、「国際協調の精神」を育む一助になったといえるだろう。

今年度の事業では18歳～39歳の青年が一同に会し、各テーマに沿ったディスカッションを行った。そのため参加青年は国際的な視野の獲得に留まらず、自国内においても年代や経験の差異がある参加青年と協同することによって、さらに広く多角的な視野を獲得することに繋がったと考えられる。「多様な人々との交流が成長につながった。」「事業に参加していた社会人を参考にコミュニケーションの仕方を学んだ。」「普段、社会人や他国の人々と接することがないので、とても貴重な機会になった。」などのコメントから、学生と社会人の良好な関係性がうかがえ、参加青年が多様性に富んだ環境の中で、相違点を認めて相互を尊重し合い、協働を通して成長を遂げたことが推察される。

また、「今後、この事業の経験をどのようにいかしていくか」との自由回答について、日本参加青年から、「ここで培った異文化への対応力や、周りを巻き込む力、オープンマインドでいることを今後の社会人生活に役立てていきたい。」「交流国と定期的に連絡をとり、情報を収集するとともに、法人運営を通して情報の発信・共有を図りたい。」「国際分野の業務に従事し、コミュニケーション能力や異文化理解力をいかしたい。」「国際交流による視点の広がりや楽しさを他の人にも共有していきたい。」「留学する動機ができた。語学力向上・交友関係の拡大、日本はその国に対して何ができるのかといった明確なゴールを持ち、その達成に向けて努力したい。」などのコメントがあった。外国参加青年からは、「自国の若者が今回のような交流を体験する機会を設けたい。」「まず、友達や同僚また家族に自分の新たな経験を共有したい。次に事業の参加者と連絡を取り続けそして、３番目に自分の新しい知識を使い、英語力を向上させたい。そして最後に事業の参加者の国を訪問したい。」「自国でボランティアとして、特に災害対策の分野において活動したい。そして、事業で出会った友達と引き続き意見交換や経験を共有し国際協力に尽力したい。」「この事業への参加を若い人達に促したい。そして自国や自分のコミュニティの問題解決に取り組みたい。若い人達に他の文化に興味を示すよう勧め友情を促進したい。」などのコメントがあった。本事業での経験や学びを自身の周囲に拡散・還元したいという参加青年の貢献への意欲を高めるとともに、進路やキャリアの方向性といった将来への希望や決意を形成するうえで、本事業が何らかの役割を果たしたといえるだろう。

本事業はコロナ禍で約３年ぶりに実施した対面交流であり、オンライン交流とのハイブリッドで構成された。日本参加青年からは、「今回参加した青年は他のプログラムや海外へ行くプログラムへも参加可能として欲しい。」「海外へ行き、文化や制度を視察できることを期待していた。」などのコメントが寄せられ、派遣プログラムへ参加したいという意欲や希望を強く持っていることがうかがえる。一方で、「対面で出会えたことに価値があると感じた。日本留学を検討し始めた外国参加青年もおり、友情が今後の国家同士の友好関係を変えるのだと改めて思った。より多くの人にこのような機会が渡ると良い。」「対面で会った方が、コミュニケーションが取りやすいと思うので、事前研修もオンラインだけでなく対面もあれば良いと思った。」「完全対面の形式となることを希望する。」などのコメントが寄せられ、オンライン交流と対面交流それぞれの利点を認めつつも、参加青年自身が本事業を通して、対面交流だからこそ経験できた他者との協働を享受し、その価値を高く評価している様子がうかがえる。

以上の評価結果から、参加青年は、自らがディスカッションや文化交流等様々な活動に積極的かつ主体的に参加することを通して、国際的視野を広げ、企画力、マネジメント力、コミュニケーション力、多文化に対応する適応力、問題解決力などの多くの力を獲得したといえる。また、本事業で得た実践的な経験を自身の仕事・学校・地域に還元するという意思が示されていることから、本事業の目的を十分に果たし、成果を収めたものと評価できる。

International Youth Development Exchange Program (INDEX) 2022
内閣府青年国際交流事業報告書　令和 4 年度国際社会青年育成事業

発行　内閣府
〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
中央合同庁舎8号館
TEL: 03-6257-1436
FAX: 03-3581-1609
URL: https://www.cao.go.jp/koryu/

Published by the Cabinet Office, Government of Japan
1-6-1 Nagata-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-8914, Japan
TEL: (+81) 3-6257-1436
FAX: (+81) 3-3581-1609
URL: https://www.cao.go.jp/koryu/

編集　一般財団法人青少年国際交流推進センター
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町2-35-14
東京海苔会館6F
TEL: 03-3249-0767
FAX: 03-3639-2436
URL: http://www.centerye.org

Edited by Center for International Youth Exchange
Tokyo Nori bldg. 6F, 2-35-14 Ningyo-cho, Nihombashi,
Chuo-ku, Tokyo, 103-0013, Japan
TEL: (+81) 3-3249-0767
FAX: (+81) 3-3639-2436
URL: http://www.centerye.org

編集協力　日本青年国際交流機構

Cooperation with IYEO
(International Youth Exchange Organization of Japan)